

加藤博・岩崎えり奈・Ali El-Shazly : "Self-Sustained Development and Migration in the Greater Cairo : Study based on the Egypt Urban Household Survey"

小島 宏 (国立社会保障・人口問題研究所) 「中央アジアにおける環境汚染と母子の健康」

なお、来年の第20回大会は5月8～9日に明治大学で開催される予定である。

(小島 宏記)

比較家族史学会第43回研究大会

日本比較家族史学会(会長：鎌田 浩・専修大学名誉教授)の第43回研究大会(実行委員長：津波高志・沖縄大学教授)が2003年5月24日(土)～25日(日)の2日間にわたって那覇市の沖縄大学で開催された。初日午前的一般研究報告の多くは沖縄に因んだものであった。初日の午後から第2日目の午前には人口研究とも関連が深い「沖縄とジェンダー」に関するシンポジウムが開催された。なお、その際、2004年秋の第46回大会では歴史人口学がシンポジウムのテーマになることが内定した。

(小島 宏記)

JGSS 国際シンポジウム

2003年6月21日(土)～22日(日)に東大阪市の大阪商業大学でJGSS国際シンポジウムが開催された。

日本版 General Social Surveys (JGSS) は、大阪商業大学比較地域研究所が文部科学省から1999～2003年度について学術フロンティア推進拠点としての指定を受け、東京大学社会科学研究所と共同実施中の研究プロジェクトである (<http://www.jgss.daishodai.ac.jp>)。研究代表は谷岡一郎(大阪商業大学教授・学長)と仁田道夫(東京大学教授・社会科学研究所所長)、代表幹事は佐藤博樹(東京大学社会科学研究所教授)と岩井紀子(大阪商業大学教授)で、事務局は大阪商業大学にある(事務局長：大澤美苗)。調査チームは大阪商業大学と東京大学を中心とする20名あまりの研究者からなるが、人口研究者としては明治大学の安蔵伸治教授とともに筆者が参加している。1999年から毎年実施されてきたJGSSのデータは労働と家族を中心とする詳細な情報を含むが、東京大学社会科学研究所のSSJデータ・アーカイブ (<http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/>) から研究用のみならず、教育用にも調査実施後、1年半程度で公開されている点がユニークである。

国際シンポジウムの初日午後には本家米国のGSSを1972年から30年にわたり実施してきたTom SMITH (Director of GSS, NORC, University of Chicago), 1984年から実施してきたオーストラリアのJonathan KELLEY Mariah EVANS (Professorial Fellow, and Senior Research Fellow, respectively, Melbourne Institute of Applied Economic and Social Research), パイロット調査を終えてこれから実施する韓国の石賢浩 (SEOK Hyunho) 成均館大学教授・調査研究所長の各氏による講演がなされた。次いで、SARSの関係で来日ができなかった中国の潘崇麟 (SHEN, Chonglin) 中国社会科学院社会学研究所方法室室長と台湾の章英華 (CHANG, Yinghwa) 中央研究院社会学研究所所長による各国版のGSSに関する論文が代読され、最後に岩井紀子・大阪商業大学教授によりJGSSに関する講演がなされた。第2日目午前の「JGSSデータの分析報告」では6名のJGSS参加者による報告がなされ、筆者も「子どもに関する意識の規定要因—JGSS-2000/2001